友好都市下田市交流視察研修会　報告書

議会では、去る 10 月 18 日から 19 日の２日間、友好都市下田市を訪問し、次のとおり交流及び視察研修会を実施しました。

○ 日　程

令和４年 10 月 18 日（火）、19 日（水）

○ 視察地及び視察目的

静岡県下田市（友好都市）

（１）下田市職員出前講座について

（２）下田市議会議員と葉山町議会議員との意見交換会

○ 視 察 者

待寺真司議長、土佐洋子副議長、飯山直樹議員、中村和雄議員、伊藤航平議員、山田由美議員、石岡実成議員、金崎ひさ議員、鈴木道子議員、荒井直彦議員、笠原俊一議員、窪田美樹議員、近藤昇一議員、伊東圭介議員

（随行 廣瀬次長、保永主査）

◇視察概要

１　下田市の概要

下田市は静岡県の東南部、伊豆半島の南部東側、北緯 34 度 40 分、東経 138 度 57 分に位置し、市域は東西 13km、南北 16km、面積は 104.38 平方キロメートル（全国都道府県市区町村別面積調）の広がりを持っています。

天城山系の南端から太平洋に至る豊かな自然に恵まれた都市で、天城山系から続く急峻な山々と約 47km に及ぶすばらしい海岸線は、下田を特徴づける美しい景観をかたちづくり、本市観光の大きな財産として、社会・経済の基盤を支えています。

また年平均気温は約 17 度と温暖で、降水量も年間 1900mm なことから、亜熱帯系から亜寒帯系までのさまざまな草花や果実を、四季を通じて楽しむことが

でき、黒潮が育む豊富な海産物とともに下田市の魅力となっています。

須崎御用邸のある下田市と、栃木県那須町、葉山町は令和４年１月 14 日に「御用邸所在地友好都市協定」を締結しました。

かつて全国に 15 か所あった御用邸のうち現存するものは「須崎御用邸」「葉山御用邸」「那須御用邸」の３か所のみとなっており、現存する３つの御用邸をもつ各自治体が友好都市の輪で繋がりました。

幕末、黒船により来航したペリー提督一行が行進したペリーロード

２　交流視察研修会概要

（１）下田市職員出前講座について（10 月 19 日）

下田市職員出前講座は、市民等の学習機会の拡大を図り、市政に対する理解及び自治意識の向上を促進するとともに、市民と市との協働によるまちづくりの関係を構築することを目的として行われています。今回は、企画課と建設課の職員から実施方法や効果、実際の講座の流れなどについてご説明を受け、質疑を行ないました。

下田市職員出前講座は、企画課が窓口となり申し込みを受け付け、講座の担当の課と調整を行い、実施の決定をしています。29 項目の講座が用意されており、市内在住・在勤・在学（小学生以上）の５名以上の団体等を対象として

行っています。出前講座実施により、人づくりやつながりづくり、地域づくり等による余暇時間の充実や、近年改めて重視されている地域学習への対応による学校教育の充実などの効果を想定しているそうです。毎年講座のメニューを各課と調整して見直していますが、人気があるのは健康づくり関連のものだそうです。また、用意した項目以外の内容についても「リクエスト講座」として、市民等からの希望に対応しており、これまでに「感染症対策」や「熱中症対策」などの講座を行ったことがあるそうです。そのほかにも小学校での市にまつわる調べ学習等の中で、講座を実施してほしいという相談もあったとのことでした。

オンラインでの講座は実施していないため、昨年・一昨年は新型コロナウイルスの関係で中止となってしまうこともありましたが、その代替として「アイデアの玉手箱」や「市長と語る会」でお話を伺う機会を設けるようにしていたとのことでした。

最後に、過去に新採用研修で行ったという「下田まち遺産出前講座」の一部を体験させていただきました。まず初めに下田市のまちづくりに関する根拠法令など前提の説明があり、そこから、「良好な景観とはなにか」を参加者自らも考え、共有しながら進めていくという流れで構成されていました。市民が市の取り組みや課題を知って自ら考え、関わることで、協働の取り組みとしてまちの遺産（魅力）を守っていくことにも繋がる内容となっていました。

視察研修会の様子（道の駅 開国下田みなと会議室にて）

（２）下田市議会議員と葉山町議会議員との意見交換会（10 月 19 日）

意見交換会には、下田市議会議員 11 人と葉山町議会議員 14 人が出席し、両議長のあいさつ、両町の出席議員の自己紹介（役職、期数、所信など）などを行ないました。公式行事で議員が顔を合わせて交流する機会は初めてで、友好都市協定締結をきっかけとして、互いの町をよく知り、議会活動を高め合っていくための一歩として和やかに情報交換ができました。

３　議員所感

＜土佐洋子副議長＞

葉山町議会議員全員で御用邸友好都市下田市を訪れることができました。初日は下田市役所にて、待寺真司議長とともに松木正一郎市長や滝内久生議長、そして防災協定の早くの締結が望まれる担当課である、防災安全課田朋大係長たちにご挨拶することができました。

滝内議長や議会事務局の皆さまに下田市内をご案内いただきました。下田は幕末の黒船来航により開かれた港町。ペリー提督率いるアメリカの黒船艦隊が来航し日米和親条約が結ばれ開港されました。なまこ壁の建物は江戸時代末期のもので、古い街並みが残る下田らしいペリーロード。ペリー上陸の碑は実際に上陸した場所ではないというお話を伺いました。ペリー道路を散策～長楽寺はロシアのプチャーチン提督と日露和親条約を締結したお寺～了仙寺はアメリカのペリー提督と日米和親条約を締結したお寺です。～「水仙まつり」で有名な爪木崎を灯台までお散歩。水仙の時期にも訪れてみたいです。～玉泉寺はハリスが日本発の米国総領事館として使ったお寺。「牛乳の碑」があります。ハリスが玉泉寺に入るとすぐ、奉行所に牛乳の提供を要求したそうで、当時の日本人は牛乳を食用にする習慣がなかったので、下田市と南伊豆町にまたがる広範囲から牛乳が届けられていたとのこと。このことにより、これが日本における牛乳売買の始まりであったとされているそうです。龍宮窟は自然の波の浸食によりできた、洞窟の天井が崩れて天窓が開いているものです。上からはハートに見えます。そのお隣にはサンドスキー場があり、傾斜角度 30 度、長さ 45m、幅 100m の自然現象で出来た天然のサンドスキー場です。子どもたちが楽

しそうにソリで滑っていました。

２日目には、「道の駅 開国下田みなと」にて、出前講座についての研修を受けました。下田市役所の職員が市民の皆さまの地元に出向き、市政の仕組みやさまざまな事業について、理解を深めてもらうための講座です。皆さまが感じる身近な疑問・関心・問題などを市担当職員が直接ご説明されています。地元の小学校では総合学習において「地域課題を学ぶ」という学習を１年間で行い、年度終わりに近い１月に「市役所がどのように対応しているか？」というテーマで出前講座の依頼があり、その出前講座をきっかけにして、子どもたちからの発案で実際に市が住民と取り組んでいる現場を見たいということで、社会科見学が実現したそうです。この現地見学は、下田まち遺産に登録された歴史的建造物である蔵を、市が修繕費を助成してリニューアルしたもので、原資はふるさと納税で行っているそうです。かつて葉山町でも出前講座が行われていたそうで、ぜひ復活してもらえればと思います。

下田まち遺産「知る」ための取り組みとして、景観広報誌「下田まち遺産手帖」を発行しています。平成 24 年３月の創刊準備号から計 20 冊となる。ぜひ葉山町でも町制 100 周年に向けて、このような「知る」ための取り組みを行えればと思う。

下田市では、下田の明るい未来につながる素敵なアイデアを募集しています。令和３年３月から始まった「アイデアの玉手箱」には 40 以上のアイデアが寄せられています。「アイデアの玉手箱」は下田の明るい未来につながるアイデアであれば、どんな内容でも構わず、ユニークで面白いアイデアは、「広報しもだ」等に掲載し皆さまで共有しているというのが、面白い取り組みと思いました。

そして、御用邸友好都市下田市議会と葉山町議会との交流。限られた時間でお互いの議員の自己紹介を行うことができました。

その後、マーリンミュージアムを見学。下田・伊豆諸島はカジキの釣り場として世界的にも有名なところです。毎年『国際カジキ釣り大会』されており、ぜひ出場して大物を釣り上げてみたいです。下田市観光協会の事務局長が、母校関東学院大学の同級生でした。

今回、伺えなかった下田ロープウェイ、海中水族館、MoBS 黒船ミュージアム、開国博物館、村上合掌造り民芸館、吉田松陰寓寄処などもとても興味があります。また、せっかくの下田ですので、ぜひ温泉にも入ってみたいです。

これからの、御用邸友好都市として、そして民間での交流に期待をしています。

玉泉寺に設置されている牛乳の碑

＜飯山直樹議員＞

令和４年 10 月 18 日、19 日の二日間にわたり、静岡県下田市において視察を実施しました。

下田市は伊豆半島のほぼ先端に位置する人口 2 万人弱の下田温泉を中心とした観光産業が栄え、美しい海岸線を有することから国内 3 カ所の御用邸が設置される街です。

葉山町からは相模湾をはさんで 100km ほど先の対岸に位置しており、空気の澄んだ真冬には伊豆半島が全て見渡せます。

下田市では「職員出前講座」について視察を実施しました。

出前講座は同じく御用邸を有する那須町でも実施されておりますが、下田市においても同様に市民の方々に市政に対する理解を深めてもらい、市民と行政の協働のまちづくりを構築するために実施されているとのことです。

申込みができる対象は５人以上が所属する団体のみとなっており、運営、進

行は団体が行うこととしており、団体が公共の会議室などを借り、その場所に職員が訪問する形を取っています。

提供される講座のメニューは行政が取り組む政策的なことが多いようで、下田市をどうしたいのかを市民が行政と一緒に考え、市民のアイデアなどをくみ取っていく機会として活用していると感じました。

一般的に職員による出前講座は行政サービスの説明会的要素が強いと思います。提供するサービスの説明は当然必要ですが、下田市のように市の将来について市民が一緒に考え、市民自身が理想とする街を作っていくことは最も大切なことです。こうした機会を提供することから住民が行政を身近なものであることを認識し、まちづくりへの参画が実現するのだと感じます。

当町では大きな事業については説明会等を開催していますし、地域の自治会や各種団体と関連する特定の内容について情報交換を行っています。こうしたコミュニケーションはもちろん重要なことです。しかし町民からは「葉山の将来をどうしたいのか」「グランドデザインを示してほしい」との声が多数聞こえます。下田市が実施する出前講座を参考にし、さらに発展させ、将来の葉山の土台となるデザインを町民と一緒に考える機会が持てるよう、提案していきたいと思います。

＜中村和雄議員＞

下田市を訪れての印象は、観光資源が多いなということと街の佇まいにどことなく寂しさを感じるというものでした。

市は案内パンフレットも数種類発行しており、また「下田まち遺産手帖」を不定期ではありますが既に№21 まで発行しているほか、観光案内所を市内２か所に開設しているなど観光に力を入れています。市のガイドブックが「豊かな自然と開国の歴史にあふれた下田」と紹介しているとおり、複雑な地形の海岸の風景や開国の歴史を示す史跡が多く観光資源に恵まれています。

しかし、人口は、昭和 51 年の 32,152 人をピークに減少を続け、現在は３分の２の２万人余となっており、人口の多い首都圏から気軽に行ける距離に位置していないことが、集客や活性化を難しくしているように感じました。

一方、須崎御用邸の紹介については観光パンフレットに記載は見当たらず、ホームページなどを探してみましたが、市が市制施行 50 周年として作成した

「下田市 50 年の歩み」の年表に「昭和 46 須崎御用邸が完成」とあるのみでした。

今回の友好都市協定の締結が、今後の下田市の発展に少しでも良い効果が出るように期待すると同時に葉山町の立地の優位性を再確認し、改めて三市町がそれぞれの特長を発揮しつつ、この協定を活かす取り組みが必要であると感じました。

＜伊藤航平議員＞

友好都市下田市を始めて訪問しました。1 日目は、下田市の市内を下田市所有のマイクロバスに乗せていただき、また下田市議会滝内議長にご同行いただき御用邸前をはじめ、海側山側市街とご説明をいただきました。ペリー来航の街で知られる下田市は、葉山町の隣横須賀市の浦賀や久里浜と似ている海岸との印象を受けました。『ペリーロード』とペリーが歩いた道を整備し、当時の調印式などが行われたお寺までは歴史を感じる素晴らしい道のりです。公共施設が無かった時代には度々お寺が使われ、寝食もお寺であったこともあります。御用邸の繋がりからの友好都市協定締結、これからは葉山町と海の街としての連携や歴史を持つ街への観光など、葉山町からも多くの人が訪れる機会になると感じました。

２日目は、下田市が開催する出前講座を下田市職員からご説明いただきました。

企画課・建設課の若手ホープによる説明は、下田市への熱い想いと人口減少・経済低迷を危機感としてしっかりと持ち、職員 1 人ひとりが考え実行する姿勢に感銘を受けました。企画力と発想・実行力は若手だからこその行動と言えると思います。全国的に抱える人口減少・社会的な経済低迷は、そこに住む人の努力でしか解決せず、市街から人を呼び込む仕掛けも本当に大切だと思います。行政サービスの内容を具体的に理解しにくいからこそ、市職員から市民に積極的にアプローチをしながら、要望や指摘、アイデアの収集をすることはとても大切で有効なまちづくりだと思います。

葉山町では、自然豊で静かな街が首都圏から車や電車で 1 時間の距離にあるという、好立地かつ知名度があるというだけで、行政サービスや町内環境・町

民の生活スタイルが周知されての移住は皆無です。葉山町は、消滅都市には認定もされず、そして消滅する危機感も無ありません。

しかし、人口減少や高齢化は進み、町の魅力が失われた場合の移住者減少が始まらないとは保障できません。環境に驕らず、常に危機感を持って行政サービスや葉山町の魅力の再認識と維持継続の方法、街で働く若手を大事にし、新しい未来に向けた行動をする必要があると下田市を訪問して改めて感じました。

葉山町での町民・企業・団体等へ向けた出前講座の開催と、葉山町所有のマイクロバスを強く要望していきたいです。コミュニティバス・スクールバス・デマンドバスなど、これからの町民メリットに欠かせないバス所有は必須と考えます。

＜山田由美議員＞

下田市を訪問するのは初めてでしたが、美しい海岸や、なまこ壁の建物、黒船乗員の墓地、市街の様子などを見ることができ、たいへん密度の濃い視察になったと思います。

協働によるまちづくりを目指す「出前講座」についての質疑応答では、予定以上の時間をかけて頂きました。企画課と担当課の調整で実現すること、介護予防や健康についての講座が多いこと、学校からのリクエストでは教育プログラムと日程のすり合わせが難しいことなど、細かく説明して頂きました。他にも「アイデアの玉手箱」や「市民と語る会」などがあり、市民の意見は色々な場で吸い上げられているようです。

葉山にも出前講座はありますが、住民への周知も含め、より充実した制度に向け、検討の余地があると思いました。

学校関連については、先生方が忙しすぎること、地域学習についてはその分、市で協力していること、今年度から 4 つの中学校を統合してスクールバスを出しているものの、乗る人数が増えて渋滞が発生したりしていることなど、現状を教えて頂きました。少子高齢化は、あらゆる自治体に深刻な影響を及ぼしています。

未来に向けて「下田まち遺産」をどう守るかなど、葉山にも共通する課題だと思いますので、今後は人口減少を食い止めつつ、景観を守る工夫をしていくことが重要だと再確認しました。

その後の意見交換会では、東海大地震なら 33 メートルの津波が予測されるなど、下田市の議員の皆さまから貴重なお話を伺うことができました。災害時の応援協定はいま検討中ということですが、どちらも海辺の自治体であることから、同時に大きな被災がないように心から願います。

なまこ壁と伊豆石造りの無料休憩所（旧澤村邸）

＜石岡実成議員＞

「出前講座」

下田市の出前講座の目的は「市民等の学習機会の拡大を図り、市政に対する理解及び自治意識の向上を促進するとともに、市民と市との協働によるまちづくりの関係を構築することを目的とする」としています。

内容的には、予め講座はメニュー化されていて、対象者は市内在住又は在勤若しくは在学している小学生以上で５人以上の構成員が所属する団体が主催する勉強会、研修会、その他の集会。その他、時間や曜日など一定の規定もあ

るが、担当は基本的には企画課が担っていました。

６月にお邪魔した那須町の出前講座を学んだ際もそうだったのですが、実際に稼働している講座項目に偏りがあり、勉強会というよりは、高齢者サロンの延長のような講座が多いように感じました。

勿論、市民からの要望を受けて、それに応えるという一連の流れだけでも、充分に協働的な取組みを実際に行っている事例とは言えますが、一方で、目的の主文ともなっている市政に対する理解や自治意識の向上という部分では、もう一つ突っ込んだ働きかけや仕掛けづくりが必要なのかもしれないと思いました。

また、出前講座とは異なる話ですが、視察時の資料で頂いた「下田まち遺産手帳」内にあった「景観まちづくり助成金」制度について、質問させて頂いたのですが、この制度は、下田市内の歴史的建造物のうち「下田登録まち遺産」に登録された建造物や「歴史的風致形成建造物」に指定された建築物の修繕に対する助成金制度なのですが、建物だけでなく、景観まちづくりに寄与する団体や活動についても財政的な支援を行なっていて、これを、葉山式に置き換えて検討してみる価値があるのではと思いました。

＜金崎ひさ議員＞

令和４年 10 月 18 日（火）～19 日（水）、静岡県下田市へ行政視察に出向きました。

友好都市締結後、初めての訪問であり、交流を深めるためにも全議員での訪問となりました。研修内容は「下田市職員出前講座について」です。

会場の「道の駅　開国下田みなと」は海に面しており、その湾の右手の小高い丘には北条家の山城があったそうです。そして、幕末の黒船の来航、ペリー提督が日米和親条約付録下田条約を締結する了仙寺まで行進したペリーロード。日露和親条約を締結した長楽寺。日本初めての米国領事館として使用された玉泉寺。そして、そこには日本初の外国人墓地もあり、歴史を感じることができる下田市です。観光の町として成り立っていますが、やはり新型コロナウイルスの影響は大きく、最近、やっと観光バスの往来を目にするようになった

とのことです。

そして、葉山と同様、素晴らしい海に囲まれ、マリンスポーツのメッカです。市立中学校４校が１校に統合されたことを契機に、部活動としてサーフィンが取り入れられたとのことです。先日行われました葉山町第３回定例会の一般質問で、町立小・中学校の部活動について葉山の人財を活用しながら、葉山ならではの部活動の創設を提案したばかりなので、我が意を得たり、との想いでした。

「下田市職員出前講座」は市政に対する理解及び自治意識の向上を促進し、協働のまちづくりを構築する目的で行われています。対象者は市内に在住、在職、在学している小学生以上の方々です。５人以上のグループを組み、要請することにより、市職員が出向くようになっています。メニューはさまざまであり、毎年各課と調整をして決めているそうです。担当窓口は企画課で、受け付けたメニューにより、それぞれの担当課に振り分けます。講師料は無料ですが、会場等は要請者が用意することになっています。メニューに沿った学習会の波及効果は十分にあり、まちづくりに繋がっていくとの感想がありました。また、これは市行政への苦情等を承る機会ではないとのことでした。

葉山町でも職員の出前講座はありますが、町民の有志が各担当課に出向いて「このような内容での説明をお願いします」と要請するシステムになっています。

誰でも気軽に町行政について勉強できるような機会はつくるべきと思います。そのためには、窓口の一本化とメニューの提示は必要です。改善のための提案をしたいと思いました。

今回の行政視察において、下田市議会事務局をはじめ、議長及び議員各位には、大変お世話になり感謝申し上げます。このように友好都市同士の交流が盛んに行われ、相互理解に繋がることを嬉しく思います。今後は民間交流の場が更に拡がるよう、施策の展開を模索したいと思います。

＜鈴木道子議員＞

10 月 18 日は、友好都市としての初訪問で、滝内議長のご案内で、市内各所

を見学させていただきました。

下田市は平成 19 年に景観行政団体となり、景観まちづくり条例の制定、景観計画の策定と進み推進してきました。

計画の策定から 10 年以上経過し、下田市も他の自治体同様、人口減少・空き家対策・事業開発また、リモートワーク、ワーケーションなど、計画策定時に比べ社会的な情勢は大きく変化してきています。

現行の計画内容では、適切な景観形成の推進が難しくなり、計画の見直しに着手することになりました。

令和４年５月に景観まちづくり審議会作業部会を設置し多岐にわたる課題に取り組み始めました。景観特性把握のため市内各所の景観特性現地調査に取り組み始めたところです。

今日までに「下田まち遺産手帖」を刊行し、この 10 年間で 21 冊の景観広報紙を発行してきました。

自然や町並みの美しい写真が盛り込まれ、町並みの概観が分かりやすく丁寧に記されていました。

冊子も参考にしつつ、ペリーロードから、了仙寺・長楽寺・龍宮窟・玉泉寺・爪木崎など精力的なご案内を十分にしていただきました。

ご多忙な中、お付き合い下さり有り難うございました。

下田市の概要が把握できたような思いで、感謝申し上げます。

19 日は、下田市職員出前講座について、研修をさせていただきました。

平成 14 年から実施されたそうです。28 項目が示され、その他メニュー以外の講座についても相談に応じています。出前講座実施後も波及効果があり、小学校の新たな学習機会の創出に繋がった事もあったそうです。例えば、小学校での総合学習において、「地域課題を学ぶ」に対して１年間学習を進め、学年終盤の１月に「市役所がどのように対応しているか」というテーマで出前講座の依頼を受けました。講座修了後、子どもたちからの発案で、実際に市が住民と取り組んでいる現場を見たいということで、社会科見学（現地見学）が実現したこともあったそうです。

出前講座実施は、社会教育的側面からは、余暇時間の充実として、現存する

様々な課題や今後に予想される急速な変化への対応が可能な状況作りに資する効果があります。また、地域学習的側面からは、学校教育の充実として、子どもたちが直面する現代社会が急速に変化する中、改めて重要視される地域学習ともなります。

この他にも、多方面の効果が今後も予測されそうです。

我が葉山町にも、「行政出張サービス講座」が設置されております。しかしながら、講座メニューの提示であるとか、講座開設の効果や町民の声などの検証なども特に無く、開設当初は頻繁に活用されていましたが、最近は活用実績もあまりない状況と見受けられます。

下田市や以前視察研修をした那須町のように、講座メニューの提示など体系化することと、より一層の周知が肝要であると思います。

町民の皆さまが、まちづくりや議会への関心、また行政全般に対する関心をお持ちいただけるように、その結果として、将来の葉山町の展望が開けゆくことを切望しています。

＜荒井直彦議員＞

１．「下田市職員講座」については、事前に質問事項を 10 点ご連絡してあり、その回答や説明を速やかに、短時間で受けることが出来る研修機会となりました。

平成 14 年 11 月 27 日に告知されて以来、長年の月日が経過しています。最近の実績は、新型コロナウイルスの影響があるものの令和２年が 22 回、令和３年が 23 回と開催されています。出前講座リストには 29 項目記載があるが、依頼の項目は、その中で 10 項目前後と思われます。

説明の資料に中に　特に葉山でも導入を検討してもいい内容のことがありました。景観広報誌「下田まち遺産手帖」の発行は平成 24 年から開始され、20 冊が発行されているそうです。

２．下田市議会議員との意見交換

短い時間での１回目の交流となりましたが、また、翌週の 27 日に葉山に視察に来られる委員会もあり、少しずつですが、お互いに友好都市として締結を

した以上、議員同士が切磋琢磨しながら、市民・町民にも還元できる事柄があれば、よいと思います。

３．その他

私自身、３回下田市に訪問しています。

友好都市として令和４年１月に締結後は、今回が初めて、次回の視察では市内の４つ中学校が１校に統合されていることが判明しています。

まだ、現在、葉山では、中学校や小学校の統合の話はないですが、いずれ近い将来、可能性がないわけではないので、再度、伺いたいと思います。

＜笠原俊一議員＞

10 月 18 日・19 日葉山町議員全員による静岡県下田市の視察を行いました。那須町に次ぎ、御用邸の街としてのつながりで新たに友好都市となった下田への視察です。

下田市到着後、滝内下田市議会議長の案内で明治維新の開港の下田港ペリー艦隊上陸の地・ペリーロード・日ロ和親条約締結所長楽寺・岬がぽっかり空洞で上から見るとハート型の入江の龍宮窟・砂のゲレンデでのサンドスキー場・玉泉寺・須崎御用邸のある爪木崎灯台など急ぎ足の視察でした。

行政の取り組みについては、下田市では部長制度はなく、各課制度による仕組であること。下田市で取り組まれている目新しい事業として、町民の疑問や新たな施策、また住民要望による課題について出前説明会開催を行っていることなど研修しました。

下田市の印象は、駅と港を結ぶ周辺には高層建築物はないが、港湾や海水浴場などの観光地としては、開けている印象でした。面積 104,38 ㎢（葉山の約 7 倍）の内、大部分は山林や田畑、天城峠で知られる山は高く深い。点在する集落も多く行政課題がたくさんあると感じました。

今後は、友好都市として交流を深め、行政課題解決や街づくりの向上に向けた機会を増やすことが出来るとよいと思います。

そのためにも、議会や行政間での交流が盛んとなることを期待しています。

上から眺めるとビーチがハートに見えるという龍宮窟

＜窪田美樹議員＞

・職員出前講座

職員が地域に出向き、市政の仕組みやさまざまな事業について、理解を深めてもらうため職員の方が講座を開催しています。

下田市は面積の大きい市ですが、要望がある地域に出向き、身近な疑問・関心・問題などを市担当職員が直接説明することで、市民の方の生の声も聞くことができていました。

テーマは、毎年市長が決めているとのことですが、時代背景に合わせテーマは変わっていますが、開催がないからといって辞めるということではないようです。

葉山町でもまちづくりや景観に対し町民の方の関心度は強いですが、下田市では出前講座を通して市民の方とのやりとりから、「下田まち遺産」として市民の方と共にまちづくりを行っていることが印象に残りました。

出前講座が発展し、学校や子どもとのつながりができ、自分が住むまちを大

切にする気持ちが育っていると感じました。

葉山町でも出前講座的なものを開催していますが、町民の方に開催していることを分かりやすく知らせて貰うだけでなく、議会でも「町民との会議」がありますが、インターネット環境などを活用し、議会を身近に広くご意見をいただける場に繋がるようにと思います。

＜近藤昇一議員＞

下田市の出前講座では、下田市職員出前講座実施要綱、出前講座業務フロー、毎年職員出前講座メニューを定めていました。

葉山町の出前講座と比較して、システム作りがなされていて、市民が出前講座を利用し易いように構成されていました。

過去に、葉山町で出前講座を利用しようとしたところ、各課にたらい回しされたことがあります。

葉山町においても、このようなシステム作りが必要ではないかと感じました。

＜伊東圭介議員＞

・「御用邸所在地友好都市」について

須崎御用邸のある下田市とは、令和 4 年 1 月 14 日に友好都市協定を締結しました。

かつて全国に 15 ヵ所あった御用邸のうち現存するのは、「須崎御用邸」・「那須御用邸」・「葉山御用邸」の 3 ヵ所のみとなり、現存する 3 つの御用邸が所在する各自治体が友好都市の輪でつながりました。今回は、締結後、初めて両市町の全議員が顔合わせをする機会になりました。

初日には、滝内下田市議会議長の案内でペリーロードや日露和親条約締結の地である長楽寺、日米和親条約締結の了仙寺、龍宮窟、玉泉寺、爪木崎など下田市の名所を視察しました。

・「下田市職員出前講座」について

市民の学習機会の拡大、市政に対する理解及び自治意識の向上や協働のまちづくりを構築することを目的として事業化し制度として行われていました。

対象者は、市内に在住在勤、在学している小学生以上で 5 人以上の団体が主催する勉強会や研修会、研究会等の集会だそうです。

講座のメニューも 29 講座と様々な内容が用意されているそうです。メニューについては、毎年、各課と調整をしているそうです。取りまとめは、企画課企画調整係が担当しているとのことでした。

那須町もそうでしたが制度として「職員出前講座」として位置付けており市民町民とのコミュニケーションツールとしても重要であり、葉山町も工夫をして制度として実施要項等を定め、積極的に行うべき施策だと考えます。

下田市議会議員と葉山町議会議員との集合写真

以上、ご報告いたします。

令和４年 12 月 14 日

葉山町議会